

令和7年度学校給食費無償化に関するアンケート集計結果

富士吉田市教育委員会
学校給食センター

本市では、市立小中学校に在籍する児童生徒の保護者の経済的負担の軽減と、子育て世代を支援するため、令和元年10月から学校給食費無償化を実施しています。給食費無償化では、これまで保護者の皆さまにご負担いただいていた、小学生1人あたり年額 約54,000円、中学生1人あたり 約58,000円を補助しています。全体では今年度は1年間で約1億7千万円の費用となります。この費用は、市民の皆様からの税金をはじめ、国の交付金やふるさと納税のご寄附を活用して賄っています。

このようにして実現している給食費無償化について、保護者の皆様のご意見をお伺いし、子育て支援政策の効果や、今後の課題を把握するため、アンケートを実施しました。アンケート調査の結果について、以下のとおり報告します。

【対象者】 市立小学校7校 6年生児童保護者 367名
市立中学校4校 3年生生徒保護者 360名
合計 727名

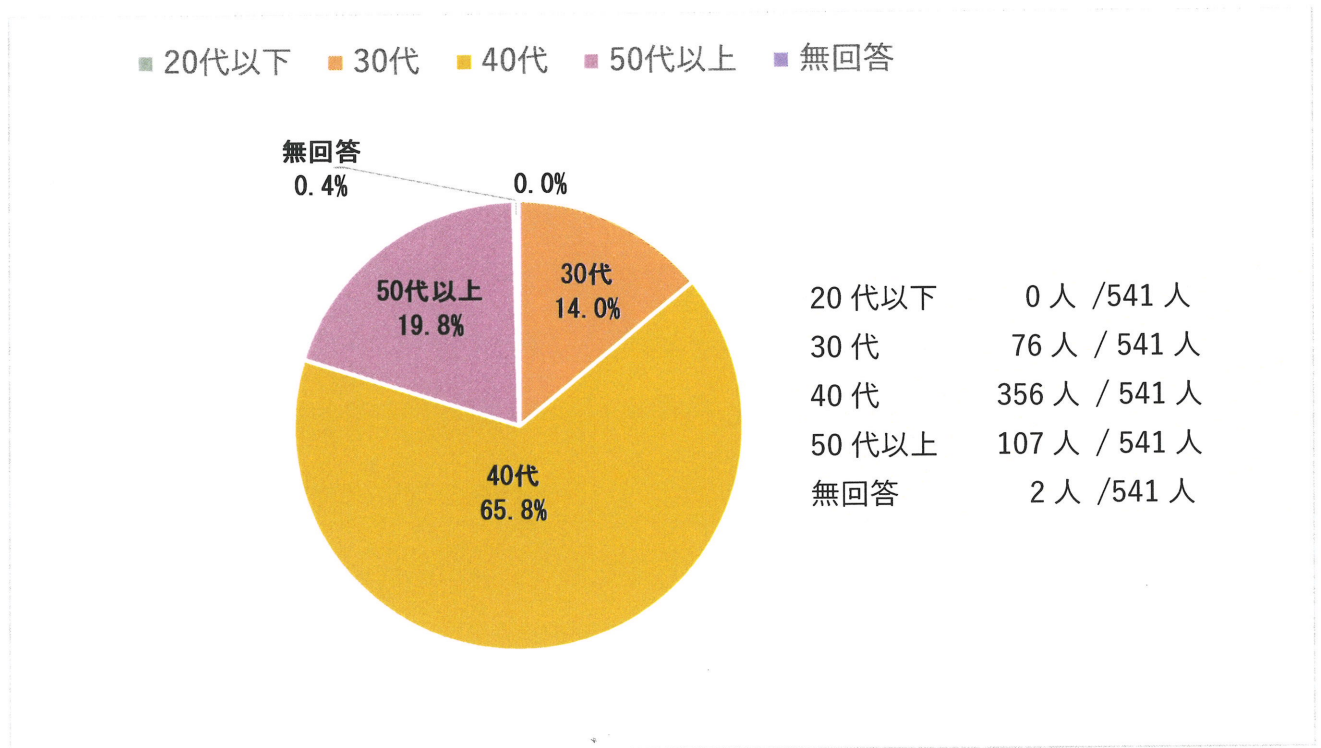
【実施時期】 令和7年10月1日～令和7年10月31日（保護者×切）

【実施方法】 各校のあいシステムを活用し、アンケートURLを送付
上記の方法が難しい場合は、紙媒体で担任教諭を通じ配布・回収
※令和7年度紙媒体での提出はなし

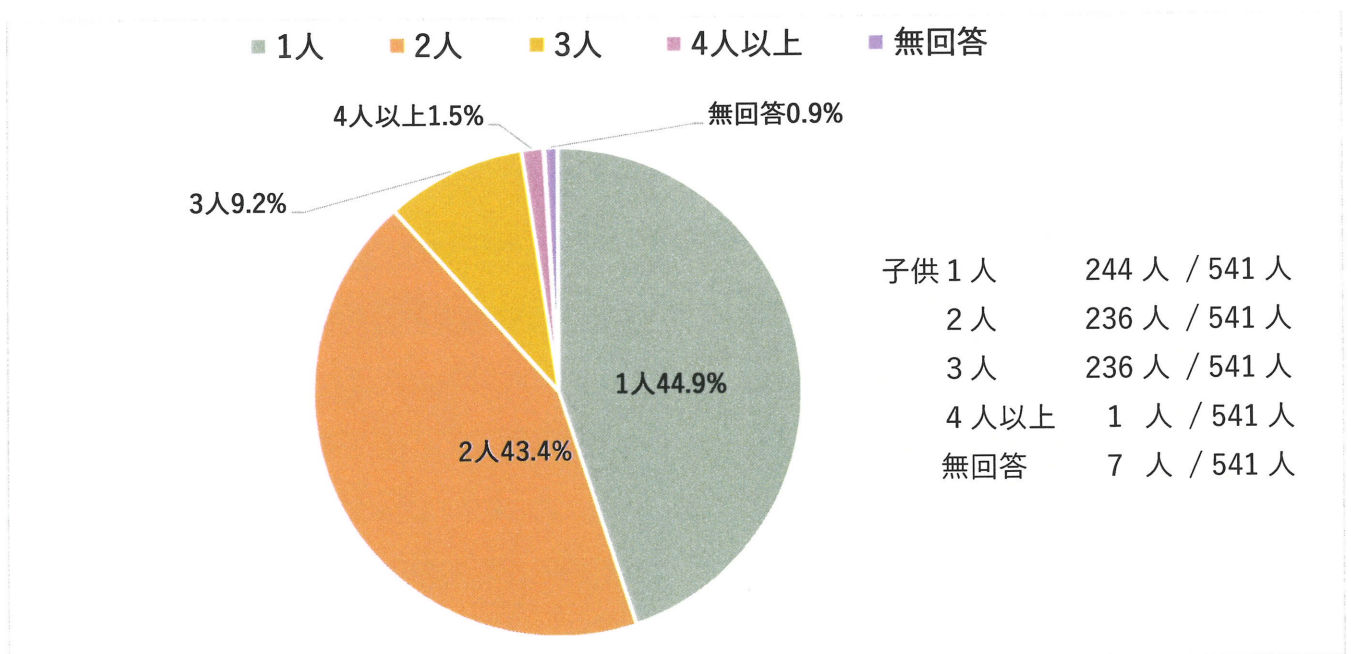
【回答率】

	対象者数	回答者数	回答率
小学校 計	367	283	77.1%
中学校 計	360	256	71.1%
在籍校未記入	—	2	—
小中学校 計	727	541	74.4%

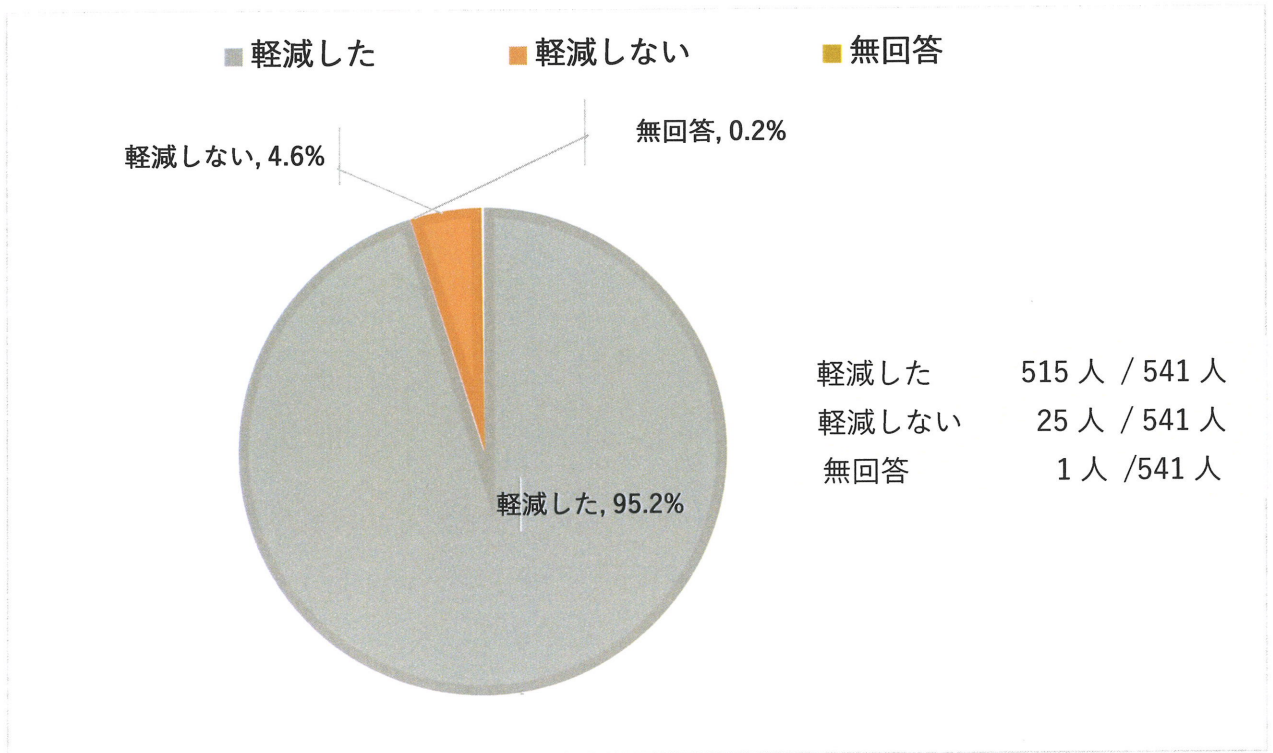
問1 回答される方の年代を教えてください。



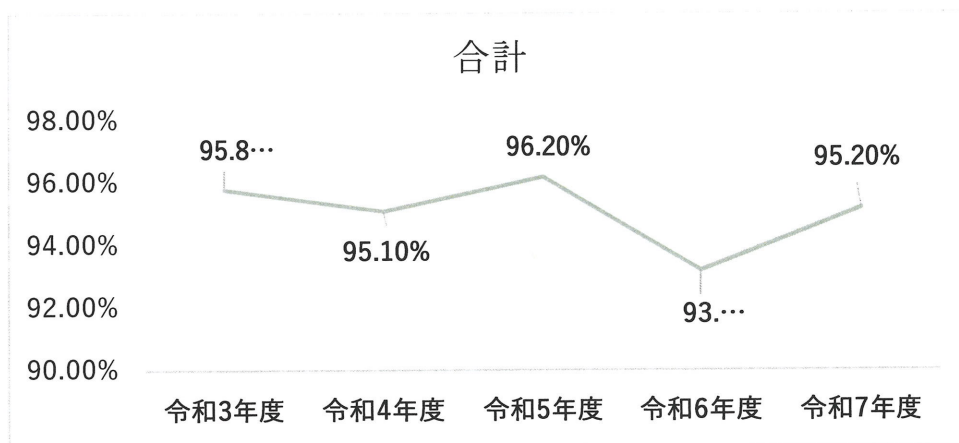
問2 現在、富士吉田市立の小中学校に在籍しているお子様は何名ですか？



問3 給食費が無償化となったことにより、経済的負担は軽減されましたか？
また、軽減しないと回答された方は、その理由も教えてください。



参考：「軽減した」と回答した割合の推移



【軽減しないと回答された方の主な理由】（抜粋）

- ・ 物価高騰により軽減したと感じない。 8件
- ・ 受験や塾、消耗品のジャージや靴の費用など他にかかる。 4件
- ・ 不登校等自宅でご飯を用意しているので変わらない。 4件
- ・ あまり影響が分からない、実感が無い。 4件

問3 まとめ

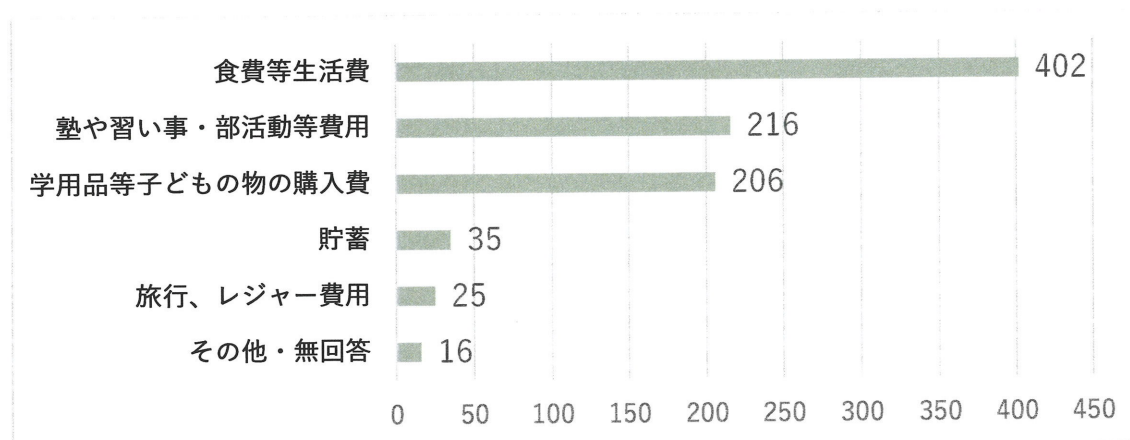
今年度、回答された方の95.2%が給食費無償化により経済的負担が軽減されたと感じており、昨年度よりも高い割合となった。

「経済的負担が軽減しない」と回答された方の多くが、「物価高騰」を原因としている。様々な物価の値上がりが、各家庭に大きく影響していると思われる。また、小学生については1～6年生と中学1年生までが、小学校1年生から給食費無償化が開始していることもあり、経済的支援を受けていると感じにくくなっていることも推測される。

問4 給食費が無償化されたことにより、給食費に充てていた費用はどのようなものに活用できるようになりましたか？（複数回答可）

給食費に充てていた費用の活用先

全回答 900



参考：活用先の割合の推移

年度 (全回答数)	令和3年度 (1148件)	令和4年度 (1210件)	令和5年度 (1200件)	令和6年度 (1209件)	令和7年度 (900件)
食費等生活費	40.7%	40.1%	38.6%	41.1%	44.7%
塾や習い事・部活動等費用	25.0%	25.4%	27.3%	25.7%	24.0%
学用品等子どもの物の購入費	23.3%	28.2%	25.4%	25.0%	22.9%
貯蓄	8.5%	4.2%	5.1%	5.3%	3.9%
旅行、レジャー費用	1.6%	1.9%	1.8%	1.7%	2.8%
その他・無回答	0.9%	0.2%	1.8%	1.2%	1.8%

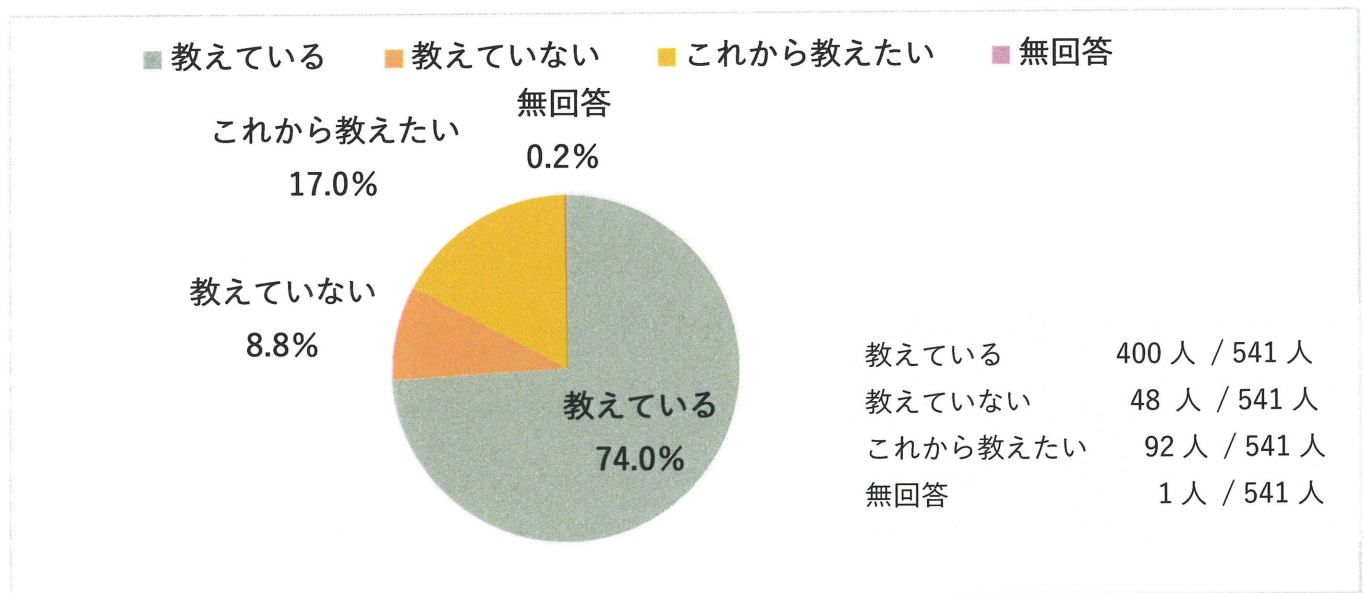
【その他の意見】

- ・上の子供たち等の教育費用等ほかに充てている 3件
- ・不明等 2件

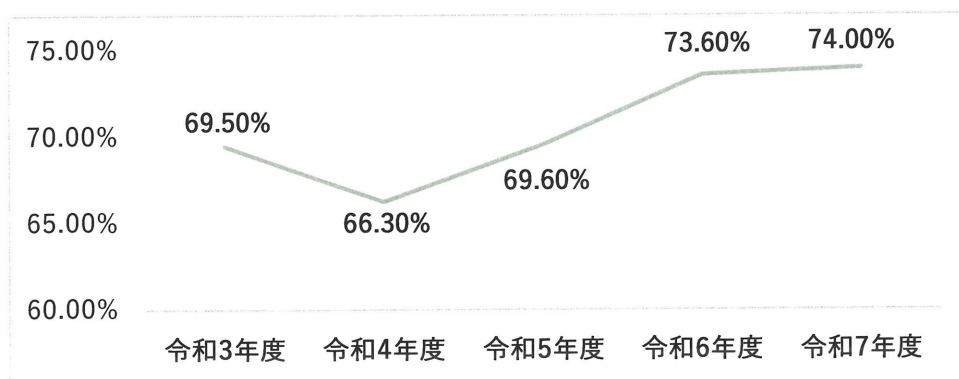
問4 まとめ

この設問についても、令和3年度以降、回答の割合はほぼ同様の結果となった。令和3年度以降、全体の約40%程度の活用先が食費等生活費であり、「学用品等子供の物の購入費」「学習塾や習い事、部活等」が年によって、若干の差異はあるが、25%前後であった。「旅行やレジャー費用」の割合が若干高くなり2%以上となった。給食費に充てていた費用は、食費を含め、子どものための日常経費として使われているといえる。

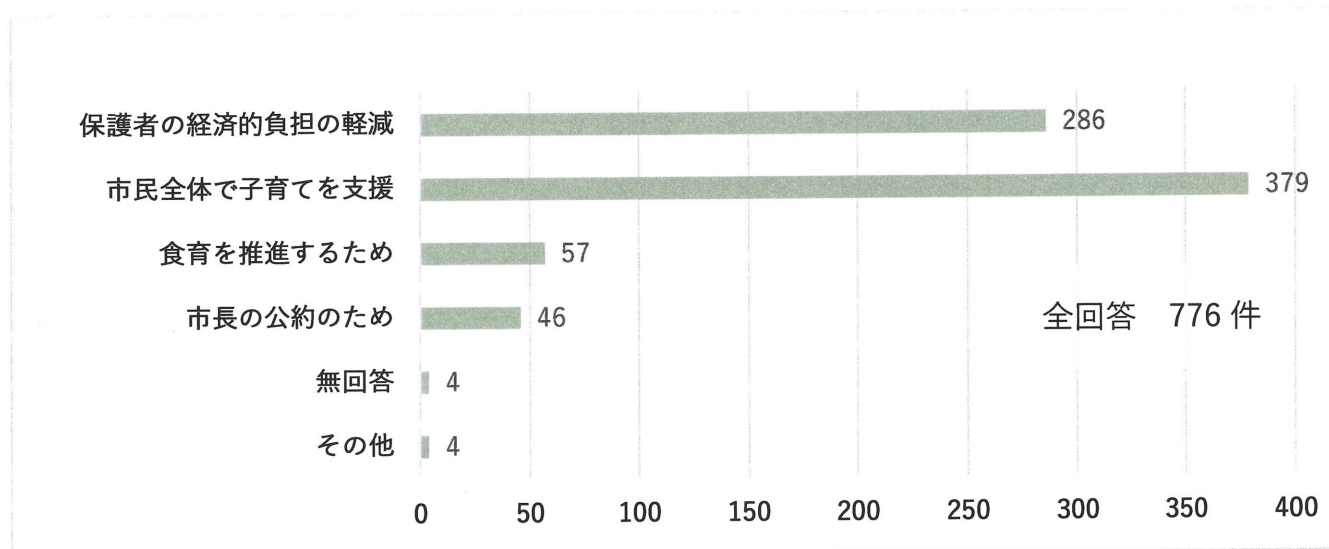
問5 お子様に学校給食費が無償化されていることを教えてくださいか？



参考：給食費が無償化されていることを「教えている」と回答した割合の推移



問6 問5で「教えている」「これから教えたい」と答えた方にお尋ねします。
給食費が無償化した理由をどのように説明していますか？
または、どのように説明したいと考えますか？（複数回答可）



参考：無償化した理由の割合の推移

年度 (全回答数)	令和3年 度 (961件)	令和4年 度 (945件)	令和5年 度 (1016件)	令和6年 度 (1128件)	令和7年 度 (776件)
市民全体で子育てを支援するため	45.9%	51.7%	47.6%	44.3%	48.9%
保護者の経済的負担の軽減	35.8%	32.4%	35.6%	31.6%	36.9%
食育を推進するため	9.1%	10.1%	9.9%	9.6%	7.3%
市長の公約のため	7.1%	4.6%	5.8%	6.8%	5.9%
その他・無回答	2.1%	1.2%	1.1%	7.7%	1.0%

【その他の意見】

- ・ふるさと納税などの話も含めて話した
- ・保護者の経済的負担を軽減するため、うちは諸事情で該当しないけれど本来は、という伝え方。
- ・美味しい給食が食べられるのは、みんなが納めている税金や補助等によってお金をだしてもらっているから食べられるということ。
- ・元々子供自身が教える前に知っていた。

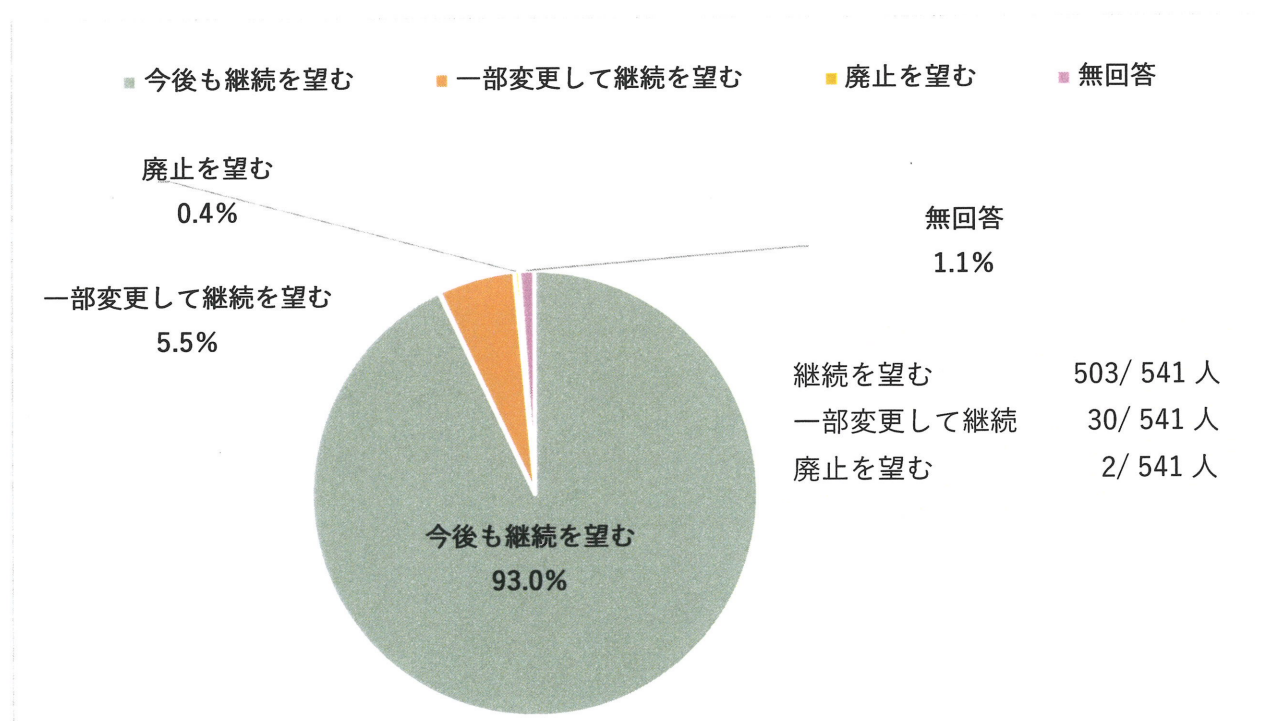
問5・6 まとめ

給食費が無償化であることを「教えている」割合が、令和4・5・6・7年度と年々増えており、各家庭で給食費無償化について、児童生徒へ伝えている割合が増えている。

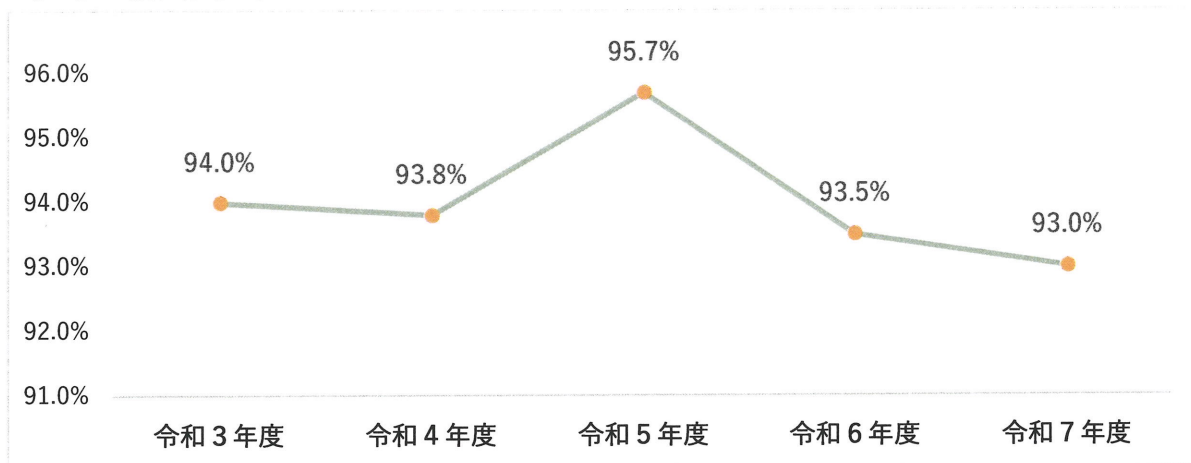
教えている理由の割合については、令和3年度以降あまり大差はないものの、各年「市民全体で子育てを支援するため」と回答する割合が最も多く、市の子育て支援政策の1つであると認識いただいていると思われる。

今後ご家庭への周知を継続して行くことはもちろん、お便りや学校訪問等の機会を活用する中で、児童生徒にも住民の皆さんからの市税や、ふるさと納税のご寄附、国の交付金等を活用して、給食を無償で食べることができていること、また、このようにして提供されている給食を感謝の気持ちをもって、残さず食べることを伝えていくことも必要であると思われる。

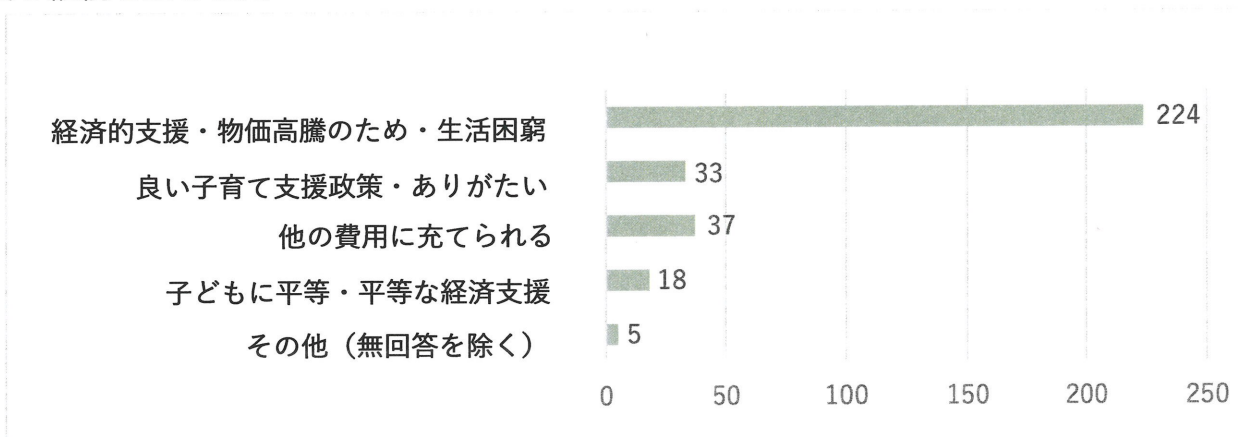
問7 現在、実施している給食費無償化について、あなたの考えに近いものを、次の中から1つだけお答えください。また、その理由も回答ください。



参考：給食費無償化について「今後も継続を望む」と回答した割合の推移



今後も継続を望む理由



(意見抜粋)

- ・ 子供の栄養を考えて作ってもらっている給食も物価高でとても大変だし、保護者からの一部負担があったほうがいいのかなど考えたりもしますが、ぜひ無償化を継続していただきたいです。
- ・ 物価高の今、色々なものが本当に高く家計への負担も大きいです。そんな中、給食費無償化は大変助かっています。今後も引き続きお願いします。
- ・ 給食代の心配をしないで学校に行かせられるのはとてもいいシステムだと思う。自分の子どもはもちろん、次の世代にもずっと続いて欲しいと思うから。
- ・ 食費がすごくかかっており、物価高に対してお給料が伴わないので、継続していただくと助かります。

など 経済的に助かる、物価高騰のため、生活が苦しいため 計 224 件

- ・ 将来、国を支える子どもを支援するため
- ・ 富士吉田市に住みやすくするため
- ・ 物価高で家ではあまり買わない食べ物を栄養のバランスを考えたメニューで無償で食べさせてもえているのはありがたいし継続してもらいたいです。
- ・ 家庭の事情関係なく子供達が食事をする事ができる
- ・ 子育てを市民全体で支援しつつ、物価高騰などの経済的負担を軽減するため
- ・ 子育て世代の経済的負担を減らすことで、子育てを支援し少子化対策にもつながるため

など 良い子育て支援制度、ありがたい制度だと思うため 計 33 件

- ・ 無償化されることによりレジャー費や教育費に費用をまわせる為習い事や子供に必要なことに使用できるため。
- ・ 経済的不安が減り、補助してもらってる分で習い事だったり他の可能性を伸ばしてあげられることができるから
- ・ 今後も子供達の教育費などは上がり続けると思うので、このまま無償化していただけるととても助かります。
- ・ 子どもが大きくなるにつれ、食事の量も増えているため、家庭での食費にお金を回せることはとてもありがたいです。

など 他の費用に充てられるため 計 37 件

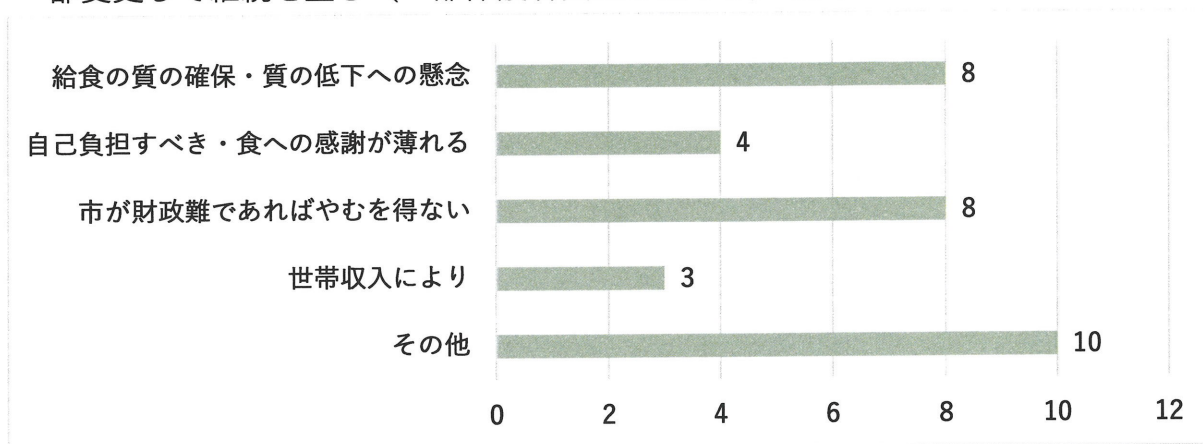
- ・ 所得に関係なく平等に子供たちのための政策だと思うから
- ・ 保護者の経済的問題に関わらず、子どもたちの健全な発育に給食が大切だから。
- ・ 平等に無償化の方が納得できる。子供たちも気兼ねなく食べられる。
- ・ 子どもの成長に食は欠かせないものであり、そこが手厚く支援されることで、子どもや保護者が守られていると感じ、子育ての励みになるから。
- ・ 給食無償化になったことで経済格差により給食費が払えない家庭でも平等にみんなと同じものが食べれるのが本当に良いと思います。この物価高の時代に1食は絶対にバランスが良い食事が無償化で食べれるありがたみ、感謝しかありません。

など 子ども・各家庭に平等な支援であるため 他 計 18 件

- ・ とてもありがたい制度
- ・ 感謝しているので

など その他の意見 計 5 件

一部変更して継続を望む（一部保護者負担を設ける）理由



(意見抜粋)

- ・ 物価高で給食の献立に影響があると思うので、少額でも給食費を集めて原材料費に充てて欲しいです。
- ・ 近頃の物価高騰により、無償化は負担軽減は大変助かるが、その反面給食の材料費なども上がっているため、給食のメニューに影響しているのではないかと心配。
- ・ 給食の質が落ちるようであれば少しの負担をしても、豊富なメニューを子供達に食べさせてあげたいと思うから
- ・ 近頃の物価高騰により、無償化は負担軽減は大変助かるが、その反面給食の材料費なども上がっているため、給食のメニューに影響しているのではないかと心配。
- ・ 給食の質が落ちるようであれば少しの負担をしても、豊富なメニューを子供達に食べさせてあげたいと思うから

など 給食の質や量を保つためであれば一部負担も必要 計 8 件

- ・ 無償だと当たり前という人が増えそう。少しは負担させて、いただけるのは当たり前ではないと年月をかけて肌身で感じさせていったほうがいいのでは？と思う。
- ・ 子どもの食事代は保護者が支払う
- ・ 給食センターの栄養士さんも大変なご苦労をされていると思うので、保護者も少しは負担してもいいのではないかと思います。

など 自己負担すべき、食への感謝が薄れる 計 4 件

- ・ 物価高騰で今までの給食を維持していくのは厳しいと思いました
- ・ 無償であるのが申し訳なく感じることもあるため
- ・ 市の財政を考えると受益者負担はあるべき。

など 市が財政難であれば、止むを得ない 計 8 件

- ・ 高所得者は支払いしてもよいのでは？
- ・ 困窮している家庭を対象にすべき

など 世帯収入に応じて一部変更 計 3 件

- ・ とても有難い無償化ですが、子育て世代より高齢者世代の軽減を望みます。
- ・ 子育てには費用がかかり、継続して支援していくことで、出生率や若い世代の定住率向上に効果ありと考える。一方で、若い世代の定住策や高齢者の暮らしやすさ、義務教育以降の子育てをしている世帯への援助も必要だと考えるので、その財源を考えバランスとれた支援策を望むため。

など その他の意見 計 10 件

廃止を望む 理由

- ・ 1人あたりの負担は小さいが、市全体の負担となるとあまりにも大きすぎるため
- ・ 質のいいものにしてください。ただよりこわいものはありません

計 2 件

問7 まとめ

給食費無償化について各意見の割合は、令和3年度以降は大きな変化はなかった。「継続を希望する」と回答した方は、今年度は93.0%であり、若干の差ではあるがここ5年で1番低い結果となった。一方、「廃止を希望する」と回答した方は0.4%、「一部変更して継続を望む」と回答した方は5.5%であり、ほぼ横ばいであった。

	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
継続を希望する	94.0%	93.8%	95.7%	93.5%	93.0%
一部変更して継続を望む	4.8%	5.2%	4.0%	5.6%	5.5%
廃止を希望する	0.3%	0.6%	0.3%	0.6%	0.4%
その他・無回答	0.9%	0.4%	0.0%	0.3%	1.1%

「継続を希望する」と回答した方の理由は、「経済的に助かる」「物価高騰のため」という理由が圧倒的に多い。また、回答理由の中に、「物価高騰」「値上がり」といった言葉が多く使用されており、長引く物価高騰が、家計へ大きく影響していることがわかると言える。

「継続を希望する」と回答した方のうち、次に多い理由については、令和4・5年度と同じく「他の費用に充てられる」といった意見が多かった。

	R4 年度	R5 年度	R6 年度	R7 年度
他の費用に充てられる	43 件	43 件	37 件	37 件
良い子育て支援制度だから・ありがたいから	29 件	27 件	46 件	33 件

中学生保護者の意見の中には、「末っ子が来春で中学卒業しますが、子供達は3人いるのでとても助かりました。これから子育てしていく世代にも恩恵を受け取れるようにしてもらいたい。富士吉田は今の市長になり医療費の高校生まで無償化だったり、高校生への児童手当を国より先に給付してくれたり子育て支援に手厚いのでとても助かっています」といった意見もあり、各家庭への援助という考えだけではなく、本市の子育て世代への支援として継続してほしいと望む声が多かった。

「一部変更して継続を望む」と回答した方の理由の多くが、昨年度同様「給食の質や量を確保できないのであれば止むを得ない」と考えていることが分かった。

給食の献立については、成長段階に応じ、必要な熱量や栄養素を確保するよう作成していることから、無償化になったことにより、量を少なくしていることはない。

また、物価高騰による影響はあるものの、卸売業者等から情報収集し、値上がりする前に計画的に購入したり、加工品を手作りのものに変えるなど、工夫をしながら、給食の質を落とすことのないよう、献立を工夫して提供している。

しかしながら、物価高の影響により、食材の質を落としたり、提供量を減らすなどを行っているのではないかと保護者の皆さまの不安を解消するためにも、学校給食センターでは、地産地消を推進しながら、安全性を十分に確認していること、また成長段階に応じ、適量の給食を提供しているということを今後もさらに保護者をはじめ多くの住民の皆様が発信していく必要がある。